

酪農家の皆様へ

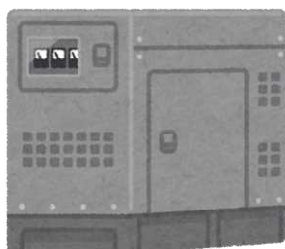
不慮の停電に備えて

昨今、全国では、平年から大きくかけ離れた天候による思いがけない気象災害が発生しています。

農場における停電発生時には次の対策をしましょう。

1 停電による搾乳不能等への備え

- 発電機の準備。お持ちの場合には、定期的に試運転を行うとともに、燃料を確保しておきます。
- 停電で使用できない機器を事前に確認します。
搾乳機器の他に、揚水ポンプ、扇風機、給餌器など。



2 長時間搾乳ができない場合の対応

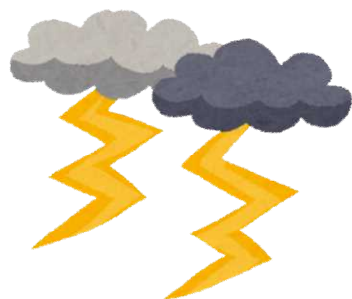
- 給水制限するとともに、濃厚飼料の給与は休止します。（前回搾乳から16時間以内の搾乳停止であれば大きな問題は生じないといわれています。）
- 牛に搾乳刺激を与えないため、牛舎や処理室の出入りは最小限にします。
- 手搾りが可能な場合は、泌乳前期牛を優先に搾乳し、泌乳末期牛は乾乳します。

【裏面へ続く】

3 通電後の搾乳再開時の対応

- バルククーラー内に生乳が貯留されていた場合には、細菌数が増加している可能性があるため、所属する酪農協に状況を説明し指示に従います。
- ミルカーとバルククーラーの洗浄、殺菌を行います。
- 前搾りにより凝固物（いわゆる、ブツ）の有無を確認し、乳房炎に罹患している場合は治療します。
- 再通電時は、機械類のショートや漏電に十分留意します。
- 牛の体調を確認して、異常が認められる場合には、すみやかに獣医師の診察を受けます。

給水や飼料の給与制限等により、牛の体では栄養のアンバランスやストレスが生じ、アルコール不安定乳、流産、ケトーシス等の発生が懸念されます。



【お問い合わせ先】

栃木県農政部畜産振興課生産流通担当

TEL028-623-2347

// 経営技術課技術指導班

TEL028-623-2322